

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床歯科医学・口腔外科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期 木曜1,3,4限	教室名	第4校舎401教室
担 当 教 員	東 仁	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
歯・顎口腔領域の疾患ならびに咬合、構音機能障害および審美性の異常などの原因と治療法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
参考図書: 言語聴覚士のための基礎知識「臨床歯科医学・口腔外科学」、編集 夏目長門、医学書院						
《授業外における学習方法》						
講義での配布資料を用いて復習してください。解剖学の教科書で頭頸部の解剖をよく確認してください。						
《履修に当たっての留意点》						
口腔の構造・機能に対する知識は言語療法の理解にも有用です。しっかり学習してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	顎顔面領域の解剖学的名称を列挙できる。	配布資料	配布資料を用いて復習する。頭頸部の解剖を確認する。	
		各コマにおける授業予定	歯・口腔・筋・骨・顎関節・唾液腺の構造について解剖学的に解説する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	歯と口腔の発生について、支配神経を挙げながら説明できる。	配布資料	配布資料を用いて復習する。頭頸部の解剖を確認する。	
		各コマにおける授業予定	歯と口腔の発生および神経支配について解説する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	唇顎口蓋裂の病態と一貫治療を関係づけることができる。	配布資料	配布資料を用いて復習する。頭頸部の解剖を確認する。	
		各コマにおける授業予定	口唇裂、口蓋裂の病型分類、疫学的特徴、臨床症状について説明し、一貫治療について解説する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	口唇口蓋裂の一貫治療に関係するキーワードを挙げ、説明できる。	配布資料	配布資料を用いて復習する。頭頸部の解剖を確認する。	
		各コマにおける授業予定	口唇裂・口蓋裂治療におけるホッツ床の役割・哺乳管理・口唇形成術・口蓋形成術・二次的修正治療・骨移植術について解説する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	咀嚼、嚥下機能とその障害、治療を関連づけて説明できる。	配布資料	配布資料を用いて復習する。頭頸部の解剖を確認する。	
		各コマにおける授業予定	咀嚼、嚥下機能について説明し、口腔疾患によるまたは口腔疾患治療後の器質性の咀嚼、嚥下障害とその治療について解説する。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 構音機能とその障害・治療を関係づけることができる。	配布資料	配布資料を用いて復習する。頭頸部の解剖を確認する。
	各コマにおける授業予定	発音・スピーチにおける鼻咽腔閉鎖機能の役割を説明した上で、構音障害とその治療法について解説する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 言語障害と関係ある疾患を列挙できる。	配布資料	配布資料を用いて復習する。頭頸部の解剖を確認する。
	各コマにおける授業予定	歯・口腔・顎・顔面の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷、中枢性疾患における口腔機能障害とその治療法について解説する。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 加齢による口腔機能障害を挙げることができる。	配布資料	配布資料を用いて復習する。頭頸部の解剖を確認する。
	各コマにおける授業予定	加齢にともなう顎口腔機能の変化と誤嚥性肺炎の予防における口腔ケアの重要性について解説する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			